

ひろがれっど

[ひろがれ、かさなれ、むさしののわ]

2018
第40号



▲図書館で本を借りてきました

陸上競技場でお花見▶

ご利用者と笑顔ですぐす
2017年入職のニューフェイス



●ワンポイントアドバイス
素材を活かして健康へ

たて糸よこ糸
●
I-K-i なまちかど保健室
みゅうじゅある

● 食を通じて地域とつながる
食を通じた地域貢献

●トピックス
人と人との新たな結びつきを
広げたい！

職員の意欲と
可能性に
ビタミンチャージ

特集

特集

職員の意欲と可能性に ビタミンチャージ!



初級研修の集大成である3年目研修の様子

今、社会福祉法人には“支え合う地域づくり”（地域共生社会）の一翼を担うことが期待されています。今ある課題に向き合い、それを解決するだけでなく、誰もが暮らしやすい地域につなげていけるよう、社会福祉法人武藏野ではさまざまな研修制度を作り、人材養成に力を入れています。今回の特集は、3年目までの新任職員研修に焦点をあてお届けします。



当法人は、必要としている方々に福祉サービスや支援を届けるためさまざまな事業を行っています。40近いそれぞれの現場で活躍しているのが300人を超える職員です。「福祉は人」と言わるとおり、当法人の最も大きな財産は「人＝職員」です。

私たちは6、7年ほど前から新たな人材育成体系を模索し、少しずつ作り上げてきました。その中でも特に力を入れてきたのが、今回の特集である入職後一年目～3年目職員の初級研修です。

初級研修では基本的なスキルの習得や実践を積み重ねながら、自らの仕事を言語化して他者に伝えられるようになります。3年かけてじっくり学びます。もちろん、このほかにも法人や各部門で状況・情報を共有するための全体会研修、事業所ごとに必要な知識やスキルを身につける内部研修、職員個々のニーズに合わせた外部研修への参加なども行い、自らを成長させるチャンスを数多く用意しています。

一人ひとりの職員が職業人としての自分を高め、磨きをかけることを期

待しています。「職員が先か、利用者が先か」と聞かれたら迷わず「利用者」と答えますが、そのような利用者本位の動きを作り出し、よりよい地域づくりに寄与するためには、「職員」の力が欠かせません。この仕事に魅力を感じ、誇りをもって課題に立ち向かえる職員を輩出することができるよう、これからも取り組みを進めていきます。

当法人では、採用1年目から3年目までの研修を初級研修として位置付けています。

1年目の職員は採用時研修や外部講師による研修の他に、1年を通して職員1人に対し1人の先輩職員が育成リーダーとなり、リーダーを中心としたサポートの下で一緒に目標を設定し、必要な知識や技術を学び、気軽に相談できる体制を整えています。

3年目になると自らの実践を言語化することで、実践を振り返りさらに深めていきます。初級研修の集大成として発表することでの、新たな問題意識につなげていきます。2年目の職員はこれに参加し、次年度の参考に準備していくます。その他、初級研修ではそれぞれの現場でその人に必要な研修や実習が組まれ、日々のコミュニケーションの中で丁寧に育成していく体制を整えています。

● 平成29年度組織研修

組織研修	研修名
初級研修 (新任職員研修)	1年目職員研修①②③
	OJTリーダー初任者研修
	2年目職員研修①②
	3年目職員研修
中堅層研修	2級初任者研修
主任研修	主任初任者研修
全体	法人内事業所交換研修

（本庄一聖）

誇りをもって課題に立ち向かえる職員を輩出することができるよう、これからも取り組みを進めていきます。



新人職員

座談会

平成29年度新規採用された職員の中から5名を
集めて、3月7日に座談会を開きました。入職を
希望したきっかけや1年間働いた中での学びなど
を語ってもらいました。

(所属は3月時点のものです)

小林 数ある社会福祉法人の中でも、
私のゆずれないポイント「高齢部門
と障害部門の両方に携われる」「家か
ら通える場所」が武藏野は当てはまつ
て、さらに、施設見学をした時にアッ
トホームな雰囲気だったことが決め手
となりました。

山本 大学で福祉分野を学んでいたわ
けではありませんが、デイセンター山
びこでボランティアをした時に、ご利用者と創作活動をしたり、運動をした
りすることを、楽しいと思い、「この
仕事をしたい!」と強く感じました。

石田 施設見学をした時に『ぶれっ
そ』を見て「しっかりした広報誌を作
っている」と、とても良い印象を持
ちました(ふれっそ編集委員歓喜!!)。働いてい
る職員やご利用者が皆さん輝いてい
ました。

飯吉 以前、幼稚園で働いていた時
に、発達の状態が気になる子どもがい
ました。そのような子どもたちが、将
来どのような人生を歩んでいくのかを
知りたい、勉強してみたいと思いました。
待遇面が安定していることも魅力

Q. 法人武藏野で働きたいと思つたきっかけや魅力を教えてください。

に、発達の状態が気になる子どもがいました。そのような子どもたちが、将来どのような人生を歩んでいくのかを知りたい、勉強してみたいと思いました。待遇面が安定していることも魅力でした。

渡邊 大学で福祉を学んだので、それを活かせる仕事をしたいという思いがありました。出身が武藏野市なので、地域に貢献したいという気持ちもあり、法人の理念「地域社会に役立つ」も自分に合っていると感じました。

Q. 実際に入職してみてどうでしたか?

石田 面倒見が良い職員が多いです。フォロー体制が整っていると感じました。尊敬できる先輩が隣にいるので、私は伸び伸びと仕事ができています。

小林 見学をした障害者総合センターと現在配属されたゆとりえでは、建物の雰囲気や職員の人数も異なっています。はじめは戸惑いもありました。でも働いてみると、ゆとりえは地域との関係をとても大切にしているという印象を持ちました。昔から関わっているボランティアさんも多いんです。開放的で明るい施設だと感じました。

渡邊 ご利用者のその人らしい生活を送るにはどうしたらよいか、職員一人

飯吉 ご利用者とのやりとりを「楽しい」と感じています。入職して1年経ちますが、これまで「大変、負担」と感じることはなかったです。職員同士で情報交換をしながら、複数の日でご利用に関わり、声をかけ合って連携も取れているため、以前の職場で感じていたストレスがなくなりました。

平成29年度新規採用された/ 新入職員たち



小林香織

(こばやし・かおり)
ものづくりが好き、洋服
や手帳も手作りします

- 新卒採用
- 特別養護老人ホーム ゆとりえ



山本耀里

(やまもと・ひかり)
楽しいことが大好き、
前向き

- 新卒採用
- デイセンター山びこ



渡邊一樹

(わたなべ・かずき)
優しくて誠実

- 新卒採用
- 特別養護老人ホーム ゆとりえ



飯吉博道

(いいよし・ひろみち)
笑顔と折り紙が自慢

- 中途採用
- ワークセンター大地



石田真緒

(いしだ・まお)
地道さと親しみやすさ

- 非常勤から正規職員採用
- 法人本部事務局



3月

ひとりがいつも考へています。限られた人員で効率的に支援を行えるように、さまざまな工夫もなされていました。ご利用者の皆さんがとても明るいことも好印象でした。

山本 デイセンター山びこは全体があたたかい雰囲気。毎日、ご利用者と職員のやりとりで素敵な場面があります。職員は日々、ご利用者の幸せや楽しみを考えていて、いつしか私も自然にそういう考えになりました。その中で大切にしたいことは、相手の感情を決めつけないこと。やりとりの中での反応などを汲み取って、本人の感情や意思を確かめたいです。

Q 1年間で学んだことは?
そしてこれからどのような職員になりたいですか?

飯吉 支援だけでなく、作業工程や進め方などを先輩職員から教わり、効率よく業務を遂行することができるようになりました。今後は、以前理事長が話していた「半歩下がった支援」を実践していくたいと思っています。困らないように何かしてあげなければ……: という関わりではなく、ご利用者が何を求めているのか考へながら、那人

にとって必要な支援ができればと思います。自分自身にゆとりをもつことも大切にしたいです。

山本 『言葉でのコミュニケーションが難しい』利用者と関わる時に、はじめは隣にいるだけで緊張していました。一緒に日々を過ごし、関わりが増えると、自然と隣にいるようになります。必ずしも言葉は必要ではなく、心と心でつながることができるので学びました。

「寄り添った支援」を実感できただよに感じています。ご利用者との信頼関係をこれからも育んでいきたいです。

渡邊 個別性を尊重した支援ということを学びました。形として介助するのではなく、快適な暮らしにつなげるにはどうしたらよいかを考えています。今は介助そのものだけで精一杯ですが、「何のためにやるのか」という目的を常に考へていきたいです。「ささやかなことでご利用者の生活の豊かさは変わる」ということを、身をもって知る場面が多くありました。これからは、福祉に関わる知識を身につけることと共に、社会の中での介護のイメージをプラスに変えていきたいです。

ScooP! 3年目研修報告 & インタビュー

3年間を振り返って

● ワークセンター大地 渡部 煙子 (平成27年度入職)

この3年間の自分の支援について振り返る機会となり、さまざまな気づきがありました。また、研修を通して同じ3年目職員の近況を知り、互いに頑張っているのだと実感することができました。

私は、3年間を振り返る意味をこめて、1人のご利用者のケースから「3年間を通しての自分の気づき」をテーマに発表しました。上司や先輩職員に相談し、助言を得ながら進めました。

大勢の前で自分の経験を伝える機会は初めてなので緊張しました。何度も発表

内容と向き合うことで、発表時には「これが私の3年間です」と自信をもって伝えることができたと感じています。

自分の仕事を振り返ることで自分自身を知る機会となりました。研修で学んだことを活かし、今後もご利用者にとつてどのような関わりができるかを考えながら、日々の支援を行っていきたいと思います。



人と人との新たな 結びつきを広げ去

ご利用者の生活や、ご本人の作品に
込められた思いを紹介すること、その
活動を、のぞの（フーシャルネットワー
クサービス）とこうつなたな方法を通じ
て、今までよりもさらに広く社会に発
信したいと、電子媒体での取り組みを
始めました。

る魅力は、実物の画像や動きのある動画を活用して、身近なこととして感じてもらうのがいいことがあります。時には衣織物ごったり、アート作品ごったり、また時には、パンやクッキーであつたりとその魅力は無限大です。

残念ながら、SNSを十分に活用できる力が、まだ私たちにありませんが、広報紙のテーマでもある「おしゃれのわ」をひろげ、重ねられたことを目指していきます。

※順次、法人SNSをつくりていまます。Facebookの「ものつくり工房 hicobae」や「パーカーブーケ」のページは、法人のホームページからジヤンプしてござい。

(法人SNS検討チーム)
植村 由紀彦



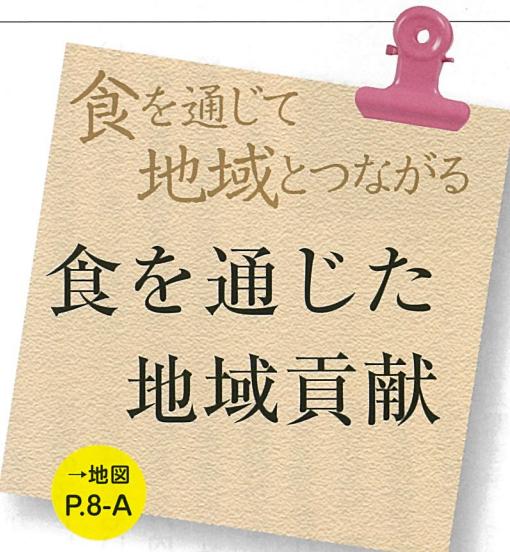
法人ホームページ
<http://fuku-musashino.or.jp/>



管理栄養士の中尾梨津子さ

のリーダーであり調理師でもある円頓仁主任から今回供されるメニューについて解説を受けたあと、お食事へ。初めて顔を合わせる参加者の皆さんも食事をしながら、血圧の話題で盛り上がりっていました。セミナーを通じて、血圧への意識を高めていただくと共に地域の皆様に「やさしい食堂七福」や福祉作業所の存在を知っていたら良い機会にもなりました。

(武藏野福祉作業所
武田光正)



「やさい食堂七福」の戸頃職員から DASH食の調理のポイントについて説明





社長の丹内まゆみさん（中央）、ボランティアの遠藤則子さん（左）、宮本美保さん（右）。

事業を申請し、週2日
のうちの1日はサロン
事業になっています。
「訪問看護をすると、
利用者の方の暮らしが
見えてきます。暮らしへ
に合わせて医療や看護、
介護を取り入れていく
うちに、必然的に暮ら
しのある『街』そのも

「人にも暮らしに、もつと“解放”が必要。誰かを助けたり誰かに助けてもらったり。要は上手に自分をさらけ出していくところ」とでしょう。そう語るのは、株式会社みゅうぢゅある代表取締役の丹内まゆみさん。訪問看護師として地域医療を支える活動をされています。事業の主軸である訪問看護サービス「ナースステーションたんぽぽ」と平行して、「いききなまむかじ保健室みゅうぢゅある」(以下「保健室」という独自の事業を週2回展開していました。29年度から武蔵野市のいきいきサロン

よりよい地域づくりを
めざして活動している
団体等を紹介します。

たて糸糸
よこ糸

いき
iki なまちかど
保健室みゅうちゅある



ご利用者の作品の数々



ご利用者の作品の数々

「丹内さんが、地域の人々が集い交流する「保健室」を立ち上げるに至ったのも、ある意味自然な流れといえるのかもしれません。

訪問看護の現場で、在宅での看取りや介護の現場を数多く見てきました。そこで感じるのは、問題に直面する前に、少しでも地域で助け合って暮らす構えや、近所同士で声をかけ合う大切さに気づいてほしいということ。「保健室」には、現在36名の利用者がいますが、介護中の人や看取りの経験者もいます。地域に暮らす人の体験談を聞けるのは貴重です。また、手芸や折り紙名人もいますから、楽しみながらいろいろなことを学べます。私は看護師ですから、

「やるよつとなりました」
「人々が集い交流する「保健室」
ったのも、ある意味自然な流れと
ません。

「、在宅での看取りや介護の現場
した。そこでは感じるのは、問題に
でも地域で助け合って暮らす心
声をかけ合う大切さに気づいて
『保健室』には、現在36名の利用
路中の人や看取りの経験者もいま
の体験談を聞けるのは貴重です。
総名人もいますから、楽しみなが
字べます。私は看護師ですから、
健康相談ならお手のものです」
「、丹内さんは頬もしい笑みを

「今は高齢の利用者が多
いのですが、子育て中のお母さんから仕事帰りの会
社員まで、地域住民すべてに『保健室』をもつと開
放したいという想いがあります。いつか老いれば、
誰かの助けが必要になります。元気なうちから、地
域の中で頼り、頼られる関係性に慣れておくのは、
住み慣れた街で年を重ねることへのウォーミングアッ
プ。それが自分を解放することにもつながります。
仕事のストレスや子育ての不安を聞いてほしい、そ
れだけでもいいので気軽に足を運んでもらいたいで
す」と、丹内さんは展望を語ります。

まさに、社名の由来 "mutual (=お互ひ様)"
の精神がここにあります。自分の暮らしの街で、手ぶ

仕事のストレスや子育ての不安を聞いてほしい、それだけでもここので気軽に足を運んでやりたいです」と、内因さんは展望を語ります。

また、社名の由来“mutual（＝お互様）”の精神がここにあります。自分の暮らす街に、手がらで立ち寄れる場所が一つでも増えたい、なかなか粹なもの。費用は年会費百円のみ。「一々一なまちかど保健室みゆきひもめの」、利用しない手はないのでは。

浮かべます

利用者同士で雑談したり、手芸や体操をして手足を動かすうちに、自然と情報交換の場ができる、お互いの悩みを打ち明けたり、誰かの



保健室の活動風景。自然と誰かが先生役になり、教え合う雰囲気に。材料もそれぞれが持ち寄ります。おしゃべりしながら、無心に手を動かすことで、気分転換や息抜きのひとときにも。

えすふれつそ

ちょっとひとりきか 心がほつと温まるスタッフの日常をお届け♪



話を重ね、

生まれる「安心感」

グループホームひすの木
松井 弘樹

→地図
P. 8 -B

「今日も約束守りましたよ」。帰られた際に笑顔で教えて下さるご入居者がいます。長い間、会社で仕事を頑張らされている方です。グループホームでの生活も、わからないうことは職員に相談し、今では見通しをもち安心して過ごされています。



夕食後、リビングでのひととき
(右側が筆者)

た生活を送るその方からの話を、いつも楽しく聴いていました。ですが私は、生活の一画面だけを見て、その方を理解したつもりになっていました。

ある日その方から「通勤中、困つて

いる状況がある」とうかがいました。

生活を送る中で、困ったなどと思う場面に直面することは一人ひとりにあると思います。しかし私は、生活の一画面を見て、その方を理解したつもりになり、困り感を積極的に汲み取るうどしてこなかつたのではと気付きました。

その後、困り感の背景や課題を明確にすべく、ご本人や応援する方々と話を重ねました。このことは、ご本人と課題を共有し、具体的な目標設定へつながりました。また、日々、目標と共に振り返ることで、ご本人には目標への確かな意識が芽生えてきました。そして今に至ります。

今後も、話を重ねることを大切に、ご入居者が「悩みを聞いてくれる人がいる、受けとめてもらえたと感じてホッとする」と安心感を抱けるような場や地域を目指していくと思っています。

人生に 寄り添う

特別養護老人ホームゆとりえ
濱岡 南

→地図
P. 8 -C

たいことの実現を支援することが大切だと気づかされました。

そして今、私は違う看取り期の方を担当しています。特養ホームでの生活は、長い人生の中ではほんの一部です。

これまでの暮らしぶり、好きだったことや、嫌いだったことを手がかりにご本人らしさを探します。したいことの実現を支援できるよう、ご本人やご家族にうかがうようにしています。お酒

私が入職して半年くらい経った頃、担当した方が看取り期に入りました。看取りと言われても、どのように関わればよいのかわからず悩んでいると、先輩から「大好きなお寿司を食べに行ってみては?」とアドバイスをもらいました。普段の食事は目をつむり、その方の誕生日に出掛けることになりました。普段の食事は目をつむつてしまい、食欲がわかないことが多かつたのですが、外出先ではご自分から手を伸ばして、マグロの握りを召し上がっていました。その姿を見て、相手が少し



今日もおしゃれをしてスーパーまでお買い物に行ってきます

たのですが、昔を思い出しながら話して話してくださりました。このことがきっかけで、その方のことを持ち知るようになり、前よりもっと心の距離が縮まったような気がします。

高齢者の理解は時間を追うごとに深まっていくもので、人の嬉しさを自分のことのように感じ、人の悲しみや辛さに寄り添うことで、心はつながっていくのだと思います。

福々刻々

厚生労働白書では「すべての人々が地域に暮らし、生きがいとともに創り高め合う地域共生社会」が謳われました（28年版）。社会福祉法人は福祉サービスの中核的な担い手としてこれまで以上に地域社会との関係を深く持ちながら、必要とされる公益的な活動を地域の方々とともに作り上げていくという時代になつたと認識しています。

法人が事業を開始して25年。私どもは公益的な取り組みを一層進めることを法人の経営基本原則にあらわし、これまで取り組んできました。今後さらに努力し、つながりの輪を広げ、福祉的なまちづくりの一翼を担いたいと思います。

さて、ここで留意したいことは個々の職員の問題意識や行動です。職員は皆それぞれ個性があり経験も様々です。もちろん仕事は共通に踏まえねばならないことが基盤になりますが、「ご利用者への支援、また地域の方々との関係づくり、そして関係機関との連携などは経験の蓄積がうまく生かされてきていると思います。総じて法人の職員は価値の多様性を受け止め、人と人の良好なつながりをつくることができると私は感じています。これは法人経営において心強いことです。

経産省では「職場や地域社会で多様な人と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として2000年から「社会人基礎力」を提唱しています。ここに示されていることはすぐでてくることばかりではなく、仕事の中で時間をかけて身につけていくものもありますが、それはベテラン職員にとっても必要な内容ということでもあります。仕事では誰しも小さな挫折や失敗を経験しますが、人は仕事で磨かれると言います。職員には「前に踏み出す力」を意識し、成長して欲しいと願っています。（理事長 安藤真洋）

ワンポイントアドバイス

素材を活かして 健康へ

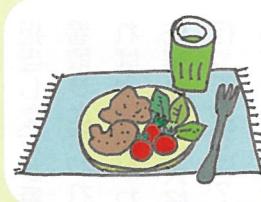
毎日三度ずつ料理し味わう食事ですが、家庭での料理であっても結構奥が深いのです。同じ材料と調味料であっても、同じ味になるとは限りません。

そこで今回は素材を活かす調理法をいくつかご紹介させていただきます。

「切る時」は、出来上がりを想像して、基本的に同じお皿へ盛る時は同じ大きさ、同じ切り方が綺麗になり、統一感ができます。

「加熱する時」は、色が変わるもの（緑色の物）から加熱し、別皿へ取り置き、最後に加えると色が活きます。

次はくつつく物（豚肉など）と堅い物…どちら順だと失敗しません。



社会福祉法人武藏野 案内図

各施設は、児童サービス、障害者サービス、高齢者サービスに色分けしています。また、Ⓐ～Ⓒは本誌に記事を掲載している施設です。



出会いと別れの季節を越え、新たな気持ちで新年度がスタートしたこの時期。当たり前の日常の中で、思いもよらず気づきに出会うことがあります。支援のあり方を今一度見直せるチャンスを大切にしたいと思います。（武田）